

# 庄原市行政評価シート

令和2年度評価

事務事業名	庄原市さとやま体験交流協議会負担金
-------	-------------------

所管	企画振興	部	商工観光	課	
実施期間	平成 26	年度～	令和	年度（終期設定が無い場合は終期を空白）	
予算科目	会計	款	項	目	事業
	01	07	01	03	4201
	一般会計	商工費	商工費	観光交流費	観光交流事業
対象者	庄原市さとやま体験交流協議会			対象者数など	交付者数:1団体
根拠法令等	特になし				
HPアドレス					
実施目的	庄原市の強みである人と自然、農林業、生活文化などの地域資源を活用した体験交流型観光を推進し、都市と農村との交流を深めることにより、市民がいきいきと暮らし、庄原ファンを増やし、観光および農林業振興、定住推進など地域活性化に資することを目的とする。				
事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験型教育旅行の受入事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型教育旅行の受け入れ</li> </ul> </li> <li>○民泊受入体制の強化事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊の普及啓発活動</li> </ul> </li> <li>○会員（民泊家庭）のスキルアップ研修事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルアップ研修等の開催</li> </ul> </li> <li>○プロモーション事業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会と一緒に、関西・北陸圏、九州圏、首都圏、中部圏の旅行会社へプロモーションに行く。</li> </ul> </li> </ul>				
年度別実績概要	平成 29 年度	体験型教育旅行の受入実績:6校 1,190名			
	平成 30 年度	体験型教育旅行の受入実績:3校 599名			
	令和 元 年度	体験型教育旅行の受入実績:4校 462名			

## 実績指標

（単位：千円）

事業費 (インプット)	項目	内容	H29	H30	R1	計
	事業費	負担金		1,200	690	850
						0
						0
計			1,200	690	850	2,740
財源	国県支出金					0
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		1,200	690	850	2,740

実績 (アウトプット)	指標名称	単位	基準値	H29	H30	R1	計
	実績 (アウトプット)	1 体験型教育旅行の受入校	校		6	3	4
2 体験型教育旅行の受入人数		人		1,190	599	462	2,251
3 民泊登録家庭数		軒		195	184	175	554
成果 (アウトカム)	1 備考欄に記載						
	2						
	3						
備考	毎年受入校に対しアンケートを実施しているが、概ね9割の回答が満足となっている。						

事務事業名	庄原市さとやま体験交流協議会負担金
-------	-------------------

評価項目	所管課	市民意見	評価委員会	評価平均(上段)・分布(下3段)
(評価は、A=1,B=0,C=△1とした平均値で、A,B+,B,B-,Cの5段階判定)				市民意見
<b>優先度</b>	<b>A</b>			
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。			
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。			
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。			
<b>認知度</b>	<b>B</b>			
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。			
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。			
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。			
<b>有効性</b>	<b>A</b>			
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。			
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。			
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。			
<b>受益者満足度</b>	<b>A</b>			
※受益者: 庄原市さとやま体験交流協議会				
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。			
B	どちらともいえない。			
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか)			
<b>市民(納税者)納得度</b>	<b>A</b>			
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。			
B	どちらともいえない。			
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。			
<b>代替性</b>	<b>B</b>			
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。			
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。			
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。			
<b>まちづくり基本条例適合性</b>	<b>B</b>			
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。			
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。			
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。			

所管課評価	<b>現行どおり</b>
-------	--------------

視点	観光交流人口の拡大だけでなく、関係人口も拡大し、庄原市を応援していただけるネットワークが広がっている。人口減少が進む中、観光交流人口および関係人口の拡大、そして民泊家庭の皆さんの生きがいづくり等につながる本事業は、今後も必要とされている。
課題	今後、さらなる誘致数を増やしていくため、民泊登録家庭数の拡大や、庄原らしい体験プログラムの開発・育成が求められている。